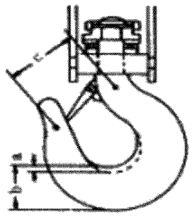
1.7.4 フックブロック	フックブロック	①　フックの変形及び摩耗の有無を調べる。	①　フックの摩耗量（下図に掲げるａに同じ。）が下図に掲げるｂの３％以内であること。 フックの開き（下図に掲げるｃに同じ。）が原寸法の±５％以内であること。 
		②　フック先端を接地させた状態でフックブロックのがたの有無を調べる。	②　著しいがたがないこと。
		③　フックブロックを分解して、トラニオン及びフックナットの損傷及び摩耗並びにベアリングの軌道面のフレーキング、圧痕、損傷及び腐食の有無を調べる。 ただし、②の検査の結果、著しいがたがない場合は、この検査を省略することができる。	③　トラニオン及びフックナットの損傷及び著しい摩耗並びにベアリングの軌道面のフレーキング、圧痕、損傷及び腐食がないこと。
		④　ワイヤロープ外れ止めの損傷の有無を調べる。	④　損傷がないこと。
		⑤　各部の取付け状態を調べる。	⑤　適正であること。
		⑥　給油脂状態を調べる。	⑥　給油脂が十分であること。
1.7.5 安全装置等	⑴　巻過ぎ防止装置及び巻過ぎ防止警報装置	①　装置のスイッチを入れ、フックその他のつり具が重錘に接触するまで巻き上げ、作動の適否を調べる。	①　ジブの先端部の下面とつり具等の上面との間隔が、所定の値に達したとき、作動すること。
		②　重錘の亀裂及び摩耗の有無を調べる。	②　亀裂及び著しい摩耗がないこと。
		③　つりロープの腐食、素線切れ及びキンクの有無を調べる。	③　腐食、素線切れ及びキンクがないこと。
		④　ロープの端末処理の状態を調べる。	④　端末処理が適正に行われていること。
		⑤　つりチェーンの亀裂及び損傷の有無を調べる。	⑤　亀裂及び損傷がないこと。
		⑥　手で電源のオン・オフを繰り返し、リミットスイッチの作動の適否を調べる。	⑥　正常に作動すること。
		⑦　リミットスイッチの損傷の有無を調べる。	⑦　損傷がないこと。
		⑧　警報装置の作動の適否を調べる。	⑧　正常に作動すること。
		⑨　警報装置の損傷の有無を調べる。	⑨　損傷がないこと。
		⑩　ケーブル（コードを含む。）の損傷、断線の有無及び絶縁の状態を調べる。	⑩　損傷及び断線がなく、かつ、絶縁が良好であること。
		⑪　カバーを開き、ケーブル接続部又は端子部の腐食、焼損及び緩みの有無を調べる。	⑪　腐食、焼損及び緩みがないこと。
		⑫　ケーブルを手で引っ張り、ケーブルリールのばねの張力の適否及び回転の状態を調べる。	⑫　張力が適正で、かつ、円滑に回転すること。
		⑬　ケーブルリールの損傷の有無を調べる。	⑬　損傷がないこと。
		⑭　各機器の取付け状態を調べる。	⑭　適正であること。
	⑵　ジブ起伏制限装置	①　ジブを最大傾斜角度まで起こし、作動の適否を調べる。	①　ジブが最大傾斜角度に達する前に作動すること。
		②　リンク機構の亀裂、変形、腐食及び摩耗の有無を調べる。	②　亀裂、著しい変形、腐食及び摩耗がないこと。
		③　手で電源のオン・オフを繰り返し、リミットスイッチの作動の適否を調べる。	③　正常に作動すること。
		④　リミットスイッチの損傷の有無を調べる。	④　損傷がないこと。